第３号　令和７年４月２２日

校長室より

「二松から飛翔へ」　～ 一期一会 ～

二松学舎大学附属高等学校
校長　鵜飼敦之

部活動大会観戦記　①　女子バドミントン部

新学期に入り、部活動も運動部では春の公式戦の季節に突入しています。

20 日（日）は、女子バドミントン部の春季大会兼関東大会の応援に出かけました。会場は多摩地区にある明治学院大学東村山高校。“志村けんさん”で知られた東村山です。多くの皆さんの住まいからは、かなり遠く、朝の 8 時 30 分の集合時間は、早起きが必要だったことでしょう。しかも対戦相手は、都立淵江高校。この学校も足立区にあるので、東京の東部地区のどこかで対戦できると好都合でしたね。といっても今大会は東東京と西東京の両地区（うちはもちろん東東京地区に所属）のオープン戦なので、やむなしですが・・・。

試合は 3 年生のペアチームが序盤は競り合いながらも徐々にエンジンがかかり、2 セットを先取して勝利。続く 3 年生シングルスもベンチからの声援を受け、危なげなく勝ち、チーム成績２－０で 2 回戦に勝ち進みました。続く、2 試合目の都立千歳丘戦は、シングルスで勝利したものの、ダブルスを二つ落とし、１－２で敗戦となりました。

次のインターハイは引退戦ともなる大会です。今回の反省を踏まえ、臨んでくれることを期待しています。ガンバレ二松！！

『何でも見てやろう』の精神

1 年生向けの海外語学研修（ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ）説明会が先週末に開催されました。現時点で興味関心をもって参加してくれた人は 25 名。この後、部活動の予定や語学の修得度合いなどを勘案して最終的に応募することになるのでしょうが、多くの参加を期待したいと思います。

それなりの経費負担も伴いますが、そこは保護者とも相談。場合によっては出世払いなんていうことも有かもしれません。今後、台湾語学研修の説明会も予定されています。

「海外って、ちょっと気になるけど不安…」「語学研修って実際どんな感じ？」―そんな風に思っている人も少なくないでしょう。高校生活の中で、将来を見つめ、自分自身を深く知っていくことはとても大切な時間です。その中で、海外での異文化体験や語学研修は、教室では得られない学びをもたらしてくれる貴重な機会です。

『何でも見てやろう』という本（今から 60 年以上も前のベストセラー）を著し、実際に好奇心と行動力、そして「自分の頭で世界を判断しよう」とする強い意志で世界を旅した作家（小田実さん）の精神は、現代にも通じるものがあると思います。

海外での異文化体験は、ただ語学を学ぶだけではありません。自分と違う価値観や習慣に触れたとき、自分がこれまで「当たり前」だと思っていたことが揺らぎます。そしてその時、はじめて「自分はどんな人間なのか」「日本という国はどんな文化をもっているのか」といった問いが生まれてきます。『何でも見てやろう』の中には、言葉が通じなくても心を通わせようとする場面や、誤解や偏見に直面しながらも相手を知ろうとする姿が描かれています。そうした経験は、まさに現代のグローバル社会で求められる「他者を理解しようとする力」の土台になるのです（一読をおススメします）。

だからこそ、皆さんにもぜひ、世界に一歩踏み出してほしいのです。「何でも見てやろう」という気持ちで、自分の殻を少し破ってみませんか。